

探しています! あなたの地域のつなぎ役



民生委員・児童委員

みんなが安全に安心して暮らせる地域づくりを担う民生委員・児童委員。本市では1000人以上の民生委員が、地域のつなぎ役として日々活動しています。その大切な役割や活動の魅力を知って、あなたも次の担い手として活動してみませんか。

【地域福祉課☎216-1244FAX223-3413】

民生委員・児童委員とは?

民生委員は、厚生労働大臣からの委嘱を受けたボランティアです(活動費の支給あり)。地域の身近な相談相手として、担当する地区で住民の困り事や心配事の相談に乗り、適切な支援やサービスへつなぐ役割などを担っています。子どもたちを見守り、子育ての相談などに応じる児童委員も兼任していますので、お気軽にご相談ください。

■主な役割



困っている人を関係機関につなぐ



高齢者や障害のある人、子どもがいる世帯などの状況把握



登下校の見守りやパトロール



福祉サービスなどの情報提供



地区の実態把握

来年は3年に一度の一斉改選

民生委員・児童委員の任期は3年(再任可)で、来年11月30日に、現在活動している委員全員が任期満了を迎えます。

今後、市内50の各地区で、次の任期(令和7年12月~令和10年11月)に活動できる人を推薦し、選考の上決定します。

興味のある方のご連絡をお待ちしています。詳しくは11面をご覧ください



地域福祉課 湯田平 主任

各地区の推薦会

候補者を決定

市の民生委員推薦会

各地区の候補者について審議

市長

厚生労働大臣に推薦

厚生労働大臣

民生委員・児童委員を委嘱

現役の委員にインタビュー

民生委員・児童委員として活動しているお二人にお話を伺いました。



玉江地区 梶原 さん

■「つなぐ」ことが役割

民生委員・児童委員としてさまざまな相談に応じますが、私たちは専門家ではありません。直接的に問題の解決はできませんが、関係機関につなぐことで、より良い方向に進むお手伝いをします。

その結果、どう動くかはご本人次第ですが、身近な相談相手として、寄り添う気持ちを大事にしながら活動しています。

■若い世代にもチャレンジしてほしい

定年延長の影響で、他の仕事を続けながら民生委員・児童委員を務める人が増えてきており、私もその一人です。委員はボランティアですので、自分の生活基盤がしっかりしていることも重要だと思います。平日昼間の研修など、参加が難しい活動は考慮してもらえますし、自分の裁量で進められる部分もあるので、ぜひ若い現役世代の方にもチャレンジしてほしいです。職場などでも、民生委員・児童委員の活動への理解が広がってほしいと思います。



明和地区 日高 さん

■実はチームワークで活動

現在、明和地区には17人の民生委員・児童委員がいますので、日頃から委員同士で情報交換し、難しい相談を受けたときは協力して対応します。それぞれ担当区域があり、一人で担うイメージがありますが、実はチームワークが大事。新任の方も安心して活動できる環境です。

■「ありがとう」がカギ

何事も声掛けからという思いで、地区の皆さんとの積極的なコミュニケーションを大切にしています。訪問などで「いつもありがとう」と言ってもらえることが原動力です。



■できる範囲から始めてもらえれば

新しく委員になる方には、他の仕事や家事などの都合を踏まえて、できる範囲のことから取り組んでももらえればと思います。さまざまな制度への理解や接遇など、活動や研修を通しての学びも多く、自身の成長を感じられることも魅力の一つです。一人でも多くの方が、民生委員・児童委員に興味を持っていただけると嬉しいです。

■インターネットでできる手続き一覧



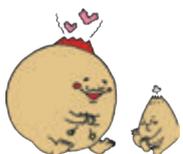
■電子版母子手帳 まぐまっこアプリ



■病児・病後児保育 予約システム「あずかるこちゃん」



■AIチャットボット



\\ 市長からのメッセージ //

スマートフォンで遠方の親族や友人とお互いの顔を見ながら話をしたり、カードをピッと当てれば現金がなくても電車やバスに乗れたり、私たちの暮らしの中で、身近なデジタル化が進んでいます。

市でも、様々なところでデジタルを活用し、より便利で快適な市民サービスの提供を推進しています。

市役所や施設の窓口では、予約や支払いなどがインターネット上でできる「行かなくてもいい市役所」づくりや、職員がサポートしながら複数の申請書類を自動的に作成する「書かない窓口」サービスなどを始め、市民の皆さんの手間や時間の大幅な縮減を図っています。

また、電子版母子手帳や病児・病後児保育サービスのインターネット予約システム、24時間、子育て支援情報を提供する「子育て情報A I (人工知能) チャット

デジタルも活用し より住みよいまちへ

トボット」などにより、安心して子育てできる環境づくりにも努めています。

先月からは、「市民のひろばオンライン」の配信を開始しました。広報紙「市民のひろば」の毎月号の記事をスマートフォンなどでより便利にご覧になれ、市の取り組みや催しを手軽に知っていただきやすくなりました。

市民の皆さんお一人おひとりが、教育や交通など暮らしのさまざまな分野において、便利で快適な住みよいまちを実感していただけるよう、これからもデジタルの力も活用した取り組みを進めてまいります。



鹿児島市長 下鶴 隆央